



全国自転車議員ネットワーク リレー寄稿 No.11

『自転車のまち⇒幸せなまち』をめざそう

文

四日市市議会議員 平野 貴之(ひらの たかゆき)

本ページの担当事務局：特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 事務局
 〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階
 TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>



自転車に乗って 「楽しさ」発見

「自転車愛好家ならではの意見をいただきました……」

これは、先日の2月議会で私が行った一般質問に対する答弁の冒頭で、市の担当部長が言った言葉です。このように、今では議会の中でも「自転車といえば平野」というふうに皆さんに認識いただいています。しかし、実は私は根っからの自転車好きというわけではありません。たしかに、2年前に初当選してから、私は市役所までいつも自転車で通っています。これはただ、その時私に自動車がかつただけのことで、いわば「仕方なく」自転車で来るようになったのです。しかし、このように自転車で通ううち、私はその楽しさを次々と発見し、これをやめられなくなってしまいました。片道15分の自転車走行は毎日の適度な運動になり、日ごとの政治活動を支える体力づくりとなっている。通勤中に地域の方々と会った際に気軽にあいさつや言葉を交わせることで、その活動の幅を広げられる。さらに、季節の移ろいを肌で感じながら通勤し、途中で今まで気づ

かなかった絶景ポイントを見つけるなど、地域の魅力を再発見できる。このように、自転車に乗ることで心がより豊かになった。そんな気がしています。私にとって自転車は、そういった数々の「楽しさ」を享受するための手段なのだと思います。

このように、自転車がもたらしてくれる多くの「楽しさ」に気づいてから、私はこれをほかの四日市市民にも感じてもらいたいと活動し、自転車活用推進研究会や自転車利用環境向上会議など市外に出て人脈拡大や情報交換に努めるようになりました。そういった場で、自活研理事長の小林成基氏や地球の友・金沢の三国成子氏とお会いし、さらにそこから多くの方をご紹介いただくことができました。そういった場で出会った方々は、皆さん初対面の私にも気さくに接して、いろいろなことを教えてくださいます。偉そうな言い方になってしまうのですが、自転車に携わる方々は、お話していてとても気持ちのいい方が多いなあ、そんなことをいつも感じています。今回の全国自転車議員ネットワークのリレー寄稿のバトンも、このようなご縁の中で授かったわけです。

自転車先進都市への 「スタートライン」に

しかし、冒頭の担当部長の発言でもお察しいただけるように、四日市市は決して自転車の先進都市とはいえません。平成25年に自転車ネットワーク計画を策定し、毎年数路線ずつ自転車レーンの整備を進めるものの、その整備個所は散在していて、どの利用者層をターゲットにしているのか明確ではありません。私が市の担当者に他市の先進事例を紹介しても、話を理解しているのかどうかもわからない。そんな状況で、もどかしささえ感じていました。

こんな中で、私のような一期目の若輩議員が得意げに自転車のことを物申しても、効果は薄い。そう感じた私は、当市の職員にも直接、全国で自転車利用に熱心に取り組む行政マンたちの話を聞いてもらおうと感ずきました。そこで、今年1月に開催された「自転車利用環境向上会議in静岡」に、四日市市の職員にも参加してもらうことを早い段階からお願いして、2名の職員に参加してもらうことができました。私は、会議の休憩時間や懇親会の際に彼らを連れて、何人もの方に紹介して回りました。また、彼らも他の参加

者の方々のお話を積極的に聞いて多くのヒントを得たようでした。今回の彼らの参加によって、四日市市の担当職員も、自転車先進都市の皆さんと「同じ頭」で取り組んでいき、市の自転車政策の方向性が開けていく。少なくともそのスタートラインに立つことができたのではないかと感じています。

親から子へ、 日常的な「学び」を

私は現在、個人的に地元のまちづくり推進協議会の交通安全部会長を務めていて、地区の自転車安全教室などを担当しています。こういった活動の中でも、例えば「らくもび」のバス死角体験や「スマートコーチング」の自動車学校のコースを利用した自転車講習など、全国の自転車活動家の皆さんの取り組みを参考にさせていただき、地域の人たちが自分の身を守るための走り方を身につけられるような講習会にしていきたいと考えています。

また、いかに充実した講習会も年に1、2回の開催では学んだことを忘れてしまいます。日常的且つ実践的な場を子どもたちに提供するためには、保護者の皆さんに協力してもらうことが最も効果的と考えます。お父さんやお母さんに、子どもと一緒に自転車に乗って公園や買い物に行き、そこで安全な自転車の乗り方を教えてもらう。こうすることで、子どもたちは実際に自動車が走る公道で、安全な走り方をマンツーマンで日常的に学習できることとなります。このような推進を、市内の保護者の方々に行っていきたいと考えて



います。保護者の皆さんにも、自分の子の命を守るために必要なだと認識していただければ、自発的な取り組みが期待できると思います。実際に、私も毎朝長男を幼稚園に送っているのですが、その時はそれぞれが自転車に乗っていき、そこで左側通行や交差点で注意すべき点などを教えています。

また、昨年4月には「日本一楽しい自転車教室」ウィーラースクール・ジャパンに長男と参加しました。自転車好きの子どもを増やし、その子どもたちが大人になって自動車を運転するようになった時に、自転車のことを気遣えるようになってもらいたい。そんなドライバーを増やして行って、自転車と自動車がお互いに理解し合える環境を作っていきたいというコンセプトには、なるほどなあ、と感心させられました。

心豊かなまちの実現へ

現在四日市市では、ジュニアの自転車競技大会である「サイクル・スポー



ツ・フェスティバル」が毎年開催され、全国から競技者が集まってきています。また、四日市競輪場ではいつも熱いレースが繰り広げられています。しかし、このような全国レベルの競技イベントが市内で開催されているにもかかわらず、これを市民の自転車利用促進につなげられていないのが現状です。今後は、これらを市民に親しみ深いものにしていき、行政と市民の自転車への関心を高めていく必要があります。

自転車先進国のデンマークは、世界一幸せな国ともいわれます。自転車と幸せの間に相関関係があるのかわかりません。しかし、冒頭で述べたように、私は自転車に乗ることで多くの「楽しさ」を得ることができました。このように、一人でも多くの人たちに、自転車を介して新たな魅力を発見し、豊かさを感じてもらいたい。そのことが、豊かなまちの実現にもつながると確信しています。そのために、私は今後も行政を巻き込みながら市内外で情報交換を進めていき、自身の活動に取り組んでいきたいと考えています。 PP